

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区三番町 14 番地 6
園名	AIAINURSERY 三番町

1. 活動のテーマ

<テーマ>

図形

<テーマの設定理由>

図形プレートやブロック、ピタゴラスの玩具を使って遊ぶ中で、図形に興味関心を持つ為。

2. 活動スケジュール

・12月

クリスマス制作で図形スタンプを使用して、クリスマスツリーを作る。

・12月～3月

室内遊びでピタゴラスを使用。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・スタンプ…画用紙、スタンプ台、見本
- ・ピタゴラス…広々とした空間、遊び方ガイドのラミネート（冊子にする等）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・ピタゴラスとスタンプを使用して、図形を見る・図形の名前を覚える・図形に触る・図形を動かす・図形と図形を組み合わせる活動を行い、子どもの様々な発見を積み重ねていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・スタンプ

クリスマス前にツリー見立てて、集団でスタンプ遊びを楽しんだ。大小の四角、三角、丸、ひし形等の様々な形をしたスタンプを組み合わせ遊び込んでいた。遊ぶ中で「三角がいっぱいと木に見えるよ。」「丸が飾りみたいでかわいいよ。」等と、発見を楽しみながら活動する様子が見られた。

・ピタゴラスでは、三角、四角、アーチ型等を組み合わせ、友だちと一緒にイメージを共有したり、想像力を掻き立てながら、家や動物園を作り見立て遊びを楽しむ姿が見られた。



※外部へ公開不可でお願いいたします。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

身近に玩具があることで、図形の認識や名前の興味、組み合わせたら形が変化する面白さ等を感じることができたと取り組みを通して学んだ。この図形の認識を通して、製作遊びや思考教育に繋がり、連続性のある保育ができたと感じる。また、様々な形に興味を持ち、面白さを十分に感じる年齢は3歳児クラスからであると改めて気付くことができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区三番町 14 番 6
園名	AIAI NURSERY 三番町

1. 活動のテーマ

<テーマ>

知識教育

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

当園の特色である学習の基礎となる基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力の向上、粘り強く学びに取り組む姿勢の習得を踏まえ、文字や英語に興味関心が芽生えた為。

2. 活動スケジュール

3～5歳の全園児を対象に週1回40分、映像教材とプリント教材を使い、ひらがな、カタカナ、数字、アルファベットの読み書き、英語に親しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・知識教育ドリル、KOKORO lingua システムを準備し、学習室で机と椅子を準備し取り組める空間を設定した。

4. 探究活動の実践

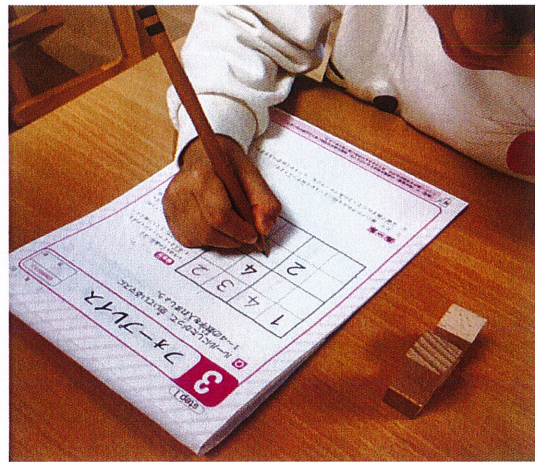
<活動の内容>

各クラス、週1回40分映像教材とプリント教材を使用して、ひらがな、カタカナ、数字、アルファベットの読み書きや英語に親しみ体を動かす。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

映像教材では、耳で英語を聞き、目でその動きを見ながら体を動かし、繰り返し見ることで、英語を理解していき、とても楽しんでいった。先に映像を見ることで、プリント教材に集中して取り組むことができた。ひらがな、カタカナ、アルファベットのプリントでは、保護者に自分の知っている単語を教えてくれたり、日々の保育の中でもこないだ習ったよねなど他児と話す姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

学習の時間を設け、園児たちは毎回楽しく学びに取り組む姿勢が見られるようになった。文字を書けるようになり、両親等に手紙を書いたり、異年齢児に絵本を読んで上げる姿があった。ドリルでは、難しい問題にぶつかっても諦めず「これであっている？」と保育者に何度も聞きに来て、解けた時には達成感を感じ笑顔が見られた。最後まで諦めないで頑張ることを学んだ。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都千代田区三番町 14 番地 6
園名	AIAI NURSERY 三番町

1. 活動のテーマ

<テーマ>

三食食品群

<テーマの設定理由>

毎日の給食と食育時を通して、自分の体を作る食べ物の栄養素に興味関心を持つようになったため。

2. 活動スケジュール

・毎日給食前の 5 分~10 分間…食材の仕分けと献立クイズ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・食育ボード、食材マグネット、給食の献立表

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

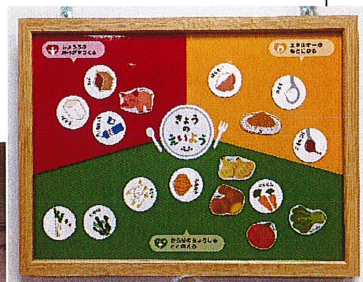
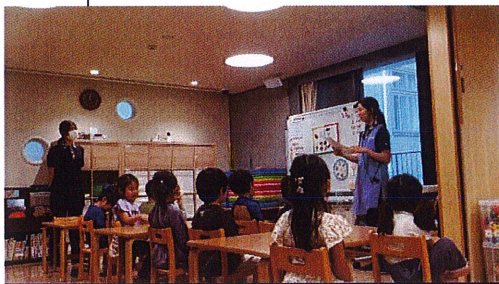
給食のメニューに合わせて、三食食品群の分類を行い、子どもの様々な発見を積み重ねていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

毎日給食前の時間に食育当番の子どもに前へ出てもらい、食材名を言いながら食材マグネットを食育ボードに貼り付けてもらう。給食の献立を読み、どの料理に何が入っているか考えるクイズを行う。実際の給食を見て正解を確認。

1ヵ月もかからず、食材の分類ができるようになった子どももいて、子ども同士「それは赤だよ」と助け合ったり、「お味噌汁に豆腐も入ってたら赤が増えそうだし美味しそう」などと保育者に話したりする姿があった。

子どもが写っているものは公開不可



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

もともと何でも食べる子どもより好き嫌いのある子どもの方が多く、残食も多かったが、体への興味に合わせて、食べものがどのように体を作っているか話したところとも関心を示し、食べてみようとする姿が増えた。今回食育ボードを使って食材を分類する活動を取り入れたことで、視覚的に目の前の給食と照らし合わせながら食べることができ、興味関心が深まっていくことを学んだ。また、バランスよく食べようとしたり、残食のない日が増えたりしたことから、毎日の積み重ねが大切であると気付いた。